

(表 3-5-5-1) 清拭拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計 (延解決方法件数)			1,267	100.0
認知能力	1	認知機能	50	3.9
	2	認知症の種類	14	1.1
	3	見当識	14	1.1
	4	妄想の有無	18	1.4
健康面	5	現病・既往歴	32	2.5
	6	バイタル	21	1.7
	7	失禁有無	55	4.3
	8	排泄状況	43	3.4
	9	清潔度	124	9.8
	10	食欲	4	0.3
	11	睡眠時間・状況	12	0.9
	12	皮膚疾患	77	6.1
	13	生理	3	0.2
能力・機能	14	歩行・下肢機能	16	1.3
	15	着脱能力	10	0.8
	16	言語理解	50	3.9
	17	上肢機能	4	0.3
心理面	18	気分	372	29.4
	19	本人の気持ち、意志	584	46.1
	20	興味・関心	136	10.7
清拭方法	21	清拭時間帯	98	7.7
	22	清拭タオルの温度	75	5.9
拒否時の状態	28	清拭拒否の開始時期	21	1.7
入浴習慣	29	入浴習慣(自宅)	65	5.1
	30	浴室環境(自宅)	32	2.5
	31	生活歴(幼少期から)	46	3.6
	32	過去の入浴体験	55	4.3
人間関係	33	他の入居者との関係	66	5.2
	34	スタッフとの関係	383	30.2
	35	家族関係	69	5.4
介護者の対応	36	スタッフの声かけ内容・見守り方	446	35.2
	37	介護者の性別	104	8.2
	38	介助者の人数	25	2.0
その他	39	性格	193	15.2
	40	性別	32	2.5
	41	下着の状態	32	2.5
	42	趣味	13	1.0
	43	着替えのストック	12	0.9
	44	その他	46	3.6

(参考)平均記入項目数 → 2.7

(表 3-5-5-3) 潜在クラスモデル評価(清拭拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン)
(情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	19372.5	19177.1	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	19287.1	18890.9	0.128	0.648	0.538	0.593
モデル3(クラス数3)	19347.1	18750.3	0.182	0.635	0.553	0.561
モデル4(クラス数4)	19521.4	18724.0	0.216	0.613	0.546	0.529
モデル5(クラス数5)	19700.2	18702.2	0.254	0.632	0.560	0.528
モデル6(クラス数6)	19880.2	18681.5	0.263	0.639	0.596	0.543
モデル7(クラス数7)	20087.9	18688.6	0.298	0.621	0.588	0.523
モデル8(クラス数8)	20290.7	18690.8	0.273	0.612	0.603	0.528
モデル9(クラス数9)	20491.9	18691.3	0.281	0.628	0.621	0.545
モデル10(クラス数10)	20707.7	18706.5	0.273	0.658	0.653	0.566
モデル11(クラス数11)	20942.6	18740.8	0.300	0.630	0.643	0.542
モデル12(クラス数12)	21185.5	18783.1	0.260	0.674	0.678	0.588
モデル13(クラス数13)	21389.8	18786.7	0.255	0.690	0.691	0.591
モデル14(クラス数14)	21606.1	18802.4	0.260	0.675	0.691	0.588
モデル15(クラス数15)	21863.5	18859.2	0.236	0.715	0.725	0.634
モデル16(クラス数16)	22089.3	18884.3	0.273	0.680	0.702	0.588
モデル17(クラス数17)	22290.3	18884.7	0.194	0.770	0.779	0.688
モデル18(クラス数18)	22563.6	18957.3	0.176	0.786	0.792	0.707
モデル19(クラス数19)	22764.2	18957.3	0.211	0.759	0.780	0.672
モデル20(クラス数20)	23060.6	19053.1	0.239	0.724	0.756	0.635

(表3-5-5-4) 清拭拒否の解決に役立つ情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン																		
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17	パターン18	
清拭方法の工夫	101	硬いタオルを裏し自分で	226	179	137	95	87	86	75	72	61	51	47	43	29	20	19	18	15	8	
	102	部分から開始	35	05	64	26	19	11	34	31	13	12	08	00	26	00	00	55	69	00	
	103	トイレット紙に交換	43	08	62	16	38	41	23	23	92	13	56	00	79	17	52	148	00	00	
	104	清拭時間を本人のペースで	47	30	08	02	216	41	05	05	132	13	131	07	23	00	51	53	59	63	00
	105	気持ちよくつづかせる	29	38	00	31	24	22	22	15	96	14	32	14	24	69	93	05	54	69	130
	190	その他	77	94	80	24	23	58	169	51	51	21	77	178	33	60	54	170	06	128	135
	201	家族からの依頼	01	00	00	00	00	00	00	00	12	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
	202	内科医師のため	44	47	20	56	05	13	103	20	229	04	04	84	00	100	05	02	69	00	
	203	薬を染みため	28	28	11	22	30	26	23	53	39	88	09	28	03	36	102	00	02	00	130
	204	清潔、血行など効果を説明	39	36	13	56	02	11	47	48	05	03	04	05	00	00	05	05	79	01	04
清拭拒否の調整	301	声かけの態度の工夫	50	34	27	30	229	27	49	62	05	170	50	00	00	00	00	135	00	14	
	302	声かけを簡単に	17	04	09	00	00	00	01	14	01	01	03	220	00	50	01	00	69	00	
	303	お礼やねぎらいを	02	00	05	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	
	304	本人のペースで声かけ	02	00	01	00	00	23	10	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	
	305	好きな話題をしながら	02	00	01	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	
	306	源泉に誘う	02	00	06	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	
	390	その他	02	04	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	
	401	湿度調整	46	63	10	129	22	12	26	99	100	16	53	00	00	01	00	05	01	00	
	402	清拭市の湿度	32	40	13	125	00	02	44	22	02	32	32	00	00	00	00	02	00	00	
	介助者の工夫	501	依頼事項が出来ている介助者	81	29	170	207	07	178	49	29	64	61	34	61	13	86	137	174	138	00
502		複数のスタッフ	37	27	112	25	04	40	16	18	25	49	05	54	58	09	05	19	00	14	
503		家族の協力	20	16	11	03	28	01	18	14	165	00	35	00	05	00	00	01	137	00	
590		その他	01	04	00	00	00	01	00	00	00	00	01	00	00	00	00	00	00	00	
601		コンプレックスを軽減	58	81	35	116	27	53	11	19	52	159	105	175	05	58	59	59	00	00	
690		その他	04	00	00	11	17	00	00	00	00	01	00	24	00	00	00	01	00	00	

(注) 滞在クラス帰還標準による算出

(表 3-5-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	無理矢理裸にして拭く	汚い、臭いから拭きましようとして声をかける	放っておいて全く関わらなう	本人の気分を無視して行なう	だますような声かけをする	強引な誘いや命令・指示的な声かけをする	その他
実数	238	222	182	214	208	113	215	20
パーセント	100.0	93.3	76.5	89.9	87.4	47.5	90.3	8.4

5. 洗髪拒否への成功事例調査

1) 回答者属性

本調査の回答 296 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

(1) 年齢

有効回答 285 件における回答者の平均年齢は、41.4 歳 (SD12.8 歳) で最少年齢が 19 歳、最高年齢が 88 歳であった。(表 3-6-1-1 参照)

(2) 性別割合

有効回答 291 件中、回答者の性別割合は男性が 75 件 (25.8%)、女性が 216 件 (74.2%) と女性の割合が多かった。(表 3-6-1-2 参照)

(3) 職名の割合

有効回答 275 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 144 件 (52.4%)、ケアマネージャーが 73 件 (26.5%)、相談員が 10 件 (3.6%)、看護師が 6 件 (2.2%) となっている。(表 3-6-1-3 参照)

(4) 役職の割合

有効回答 270 件中、回答者の役職の割合は管理者が 93 件 (34.4%)、主任・リーダーが 72 件 (26.7%)、施設長が 16 件 (5.9%)、事務長と理事長が各 1 件 (0.4%) で、95 件 (35.2%) が役職なしであった。(表 3-6-1-4 参照)

(5) 資格の所有割合

有効回答 283 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 170 件 (60.1%)、ヘルパーが 125 件 (44.2%)、ケアマネージャーが 94 件 (33.2%)、看護師 (准看護師) が 19 件 (6.7%)、社会福祉士が 15 件 (5.3%) であった。(表 3-6-1-5 参照)

(6) 所属事業種の割合

有効回答 283 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 277 件 (97.9%)、介護老人福祉施設が 3 件 (1.1%)、介護老人福祉施設 (ユニット型) が 2 件 (0.7%)、小規模多機能型通所介護事業が 1 件 (0.4%) であった。(表 3-6-1-6 参照)

(7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 288 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.2 年 (SD2.7 年) で最少が 0.1 年、最高が 15.0 年であった。(表 3-6-1-7 参照)

(8) 総介護経験年数

有効回答 282 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.6 年 (SD5.2 年) で最少が 0.5 年、最高が 29.5 年であった。(表 3-6-1-8 参照)

2) 洗髪拒否の解決経験

本調査に回答を得た 296 件における洗髪拒否の解決経験、解決した高齢者に関する

る年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

(1) 解決経験の有無

有効回答 291 件中、洗髪拒否で解決経験があるのは 276 件 (94.8%) であった。

(表 3-6-2-1 参照)

(2) 高齢者の状態

① 年齢

解決経験がある 276 件のうち有効回答 262 件における高齢者の平均年齢は、84.6 歳 (SD6.9 歳) で最少年齢が 46 歳、最高年齢が 99 歳であった。その分布をみると、85 歳～89 歳が 85 件 (32.4%) で最も多い。(表 3-6-2-2 参照)

② 性別

性別割合は、有効回答 271 件中、男性が 30 件 (11.1%)、女性が 241 件 (88.9%) と女性が多い。(表 3-6-2-3 参照)

③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 257 件中、アルツハイマー型が 170 件 (66.1%)、脳血管疾患型が 45 件 (17.5%)、前頭側頭型が 4 件 (1.6%)、混合が 8 件 (3.1%) であった。(表 3-6-2-4 参照)

④ 身体機能の障害とADL

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 276 件中、下肢が 45 件 (16.3%)、上肢が 5 件 (1.8%)、体幹が 3 件 (1.1%) であり、残りの 223 件 (80.8%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 3-6-2-5 参照)

【食事介助】

食事介助は、有効回答 258 件中、自立が 210 件 (81.4%)、一部介助が 44 件 (17.1%)、全介助が 4 件 (1.6%) であった。(表 3-6-2-6 参照)

【移動】

移動は、有効回答 235 件中、短距離歩行自立が 120 件 (51.1%)、長距離歩行自立が 82 件 (34.9%)、杖自立が 28 件 (11.9%) であった。(表 3-6-2-7 参照)

【排泄】

排泄は、有効回答 236 件中、身体介助必要が 91 件 (38.6%)、身体介助必要なしが 145 件 (61.4%) であった。(表 3-6-2-8 参照)

【入浴】

入浴は、有効回答 263 件中、全介助が 36 件 (13.7%)、洗身洗髪介助が 118 件 (44.9%)、移動介助が 18 件 (6.8%)、その他一部介助が 66 件 (25.1%) で、自立が 25 件 (9.5%) であった。(表 3-6-2-9 参照)

⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 274 件中、ランク I が 32 件 (11.7%)、ランク II が 73 件 (26.6%)、ランク III が 95 件 (34.7%)、ランク IV が 66 件 (24.1%)、ランク V が 8 件 (2.9%) であった。(表 3-6-2-10 参照)

⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 265 件中、J ランクが 44 件 (16.6%)、A ランクが 190 件 (71.7%)、B ランクが 28 件 (10.6%)、C ランクが 3 件 (1.1%) であった。(表 3-6-2-11 参照)

⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注 1)を行った結果 3 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、入浴介助で洗身洗髪介助(50.5%)とその他一部介助(32.8%)が多く、身体障害の重症度で A ランク(86.7%)が多く、認知症の重症度でランク II(40.7%)とランク III(37.7%)の中程度が多いことから、これを「一部介助、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 229 件のうち 144 件(62.9%)が該当する。

第 2 パターンは、入浴介助で全介助(46.3%)と洗身洗髪介助(43.0%)が多く、身体障害の重症度で B ランク(37.5%)と A ランク(57.8%)が多く、認知症の重症度でランク IV(52.6%)とランク III(41.1%)が多いことから、これを「全介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 66 件(28.8%)が該当する。

第 3 パターンは、入浴介助で自立(48.5%)と洗身洗髪介助(30.7%)が多く、身体障害の重症度で J ランク(86.0%)が多く、認知症の重症度でランク I(52.5%)とランク II(21.7%)が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには 18 件(7.9%)が該当する。(表 3-6-2-12 参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-6-2-13 参照)

(注 1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、入浴介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団(これをクラスと呼ぶ)を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル(クラス数)を評価する指標として A I C や B I C などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である(注 2 参照)。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3) 解決前と解決後の変化

洗髪拒否で解決経験がある 276 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出した。

(1) 解決前の状況

洗髪拒否が解決される前の状況としては、有効回答 275 件中、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」が 141 件 (51.3%)、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」が 116 件 (42.2%)、「大きな声を出して拒否していた」が 114 件 (41.5%)、「脱衣することを嫌がった」が 81 件 (29.5%)、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」が 64 件 (23.3%)、「洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった」が 28 件 (10.2%)、「シャンプーはできても、流すことができなかった」が 14 件 (5.1%) であった。(表 3-6-3-1 参照)

(2) 解決後の状況

洗髪拒否が解決された後の状況としては、有効回答 273 件中、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」が 149 件 (54.6%)、「徐々に洗える日が多くなった」が 147 件 (53.8%)、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」が 65 件 (23.8%)、「後ろ髪は嫌がらずに洗えた」が 16 件 (5.9%)、「自分で洗髪するようになった」が 15 件 (5.5%)、「洗ってほしいと訴えることもでてきた」が 12 件 (4.4%)、「理容室では洗髪できた」が 9 件 (3.3%) であった。(表 3-6-3-2 参照)

4) 洗髪拒否の解決方法

洗髪拒否で解決経験がある 239 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

(1) 解決方法の概況

洗髪拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 40 分類した。分類結果は、洗髪方法の工夫に関するものが 15 分類、声かけ・誘導の工夫に関するものが 9 分類、洗髪環境の調整に関するものが 5 分類、介助者の工夫に関するものが 6 分類、その他が 5 分類であった。

有効回答 274 件のなかで多くあがったものは、「声かけの態度を工夫」が 177 件 (64.6%)、「お礼やねぎらい」が 142 件 (51.8%)、「一部分から」が 112 件 (40.9%)、「不安を除きながら」が 107 件 (39.1%)、「湯温調整」が 104 件 (38.0%)、「好きな話題で会話しながら」が 102 件 (37.2%)、「単純な声かけ」が 90 件 (32.8%)、「顔に湯がかからない工夫」が 88 件 (32.1%)、「浴室温度調整」が 77 件 (28.1%)、「介助者の工夫」が 65 件 (23.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」が 63 件 (23.0%)、「1人で」が 61 件 (22.3%)、「洗髪の効能を説明」が 59 件 (21.5%)、「洗髪後の手入れを行う」が 56 件 (20.4%) などであり、1 事例あたり平均 5.5 項目あげられた。(表 3-6-4-1 参照)

5) 洗髪拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,328 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

(1) 役立った情報の概況

有効回答 1,328 件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が 518 件 (39.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 453 件 (34.1%)、「気分」が 341 件 (25.7%)、「スタッフとの関係」が 314 件 (23.6%)、「洗髪への反応・様子」が 197 件 (14.8%)、「湯温」が 172 件 (13.0%)、「性格」が 137 件 (10.3%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.6 項目あげられた。(表 3-6-5-1 参照)

(2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 19 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.8%) を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(40.6%) 他で構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 176 件 (13.3%) である。

第 2 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「気分」(99.9%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(56.5%) も多く、「興味・関心」(20.6%) を含めた“心理面”にウェイトを置いて、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(20.1%) 他で構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 158 件 (11.9%) である。

第 3 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「湯温」(99.4%) を共通ベースとして、「シャワーの水圧」(34.7%)、「浴室の温度」(30.9%) などを含めた“入浴・洗髪方法”にウェイトを置いて構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 124 件 (9.3%) である。

第 4 パターンは平均 2.3 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.7%) を共通ベースとして、「洗髪への反応・様子」(27.1%)、「スタッフとの関係」(23.1%) などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 117 件 (8.8%) である。

第 5 パターンは平均 2.1 項目の組み合わせであり、「洗髪への反応・様子」(55.0%) を主として、「清潔度」(24.4%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(20.9%) などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 101 件 (7.6%) である。

第 6 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」

(99.2%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(84.1%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(56.2%)も多く、「気分」(37.2%)、「性格」(28.3%)などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ97件(7.3%)である。

第7パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「性格」(48.7%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(22.1%)他に分散して構成されている。第7パターンの該当方法は延べ92件(6.9%)である。

第8パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(82.2%)を共通ベースとして、「介護者の性別」(50.6%)も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.8%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ61件(4.6%)である。

第9パターンは平均3.0項目の組み合わせであり、「洗髪習慣(自宅での方法)」(99.1%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(50.9%)も多く、「気分」(22.7%)、「過去の入浴体験」(22.6%)などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ56件(4.2%)である。

第10パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「認知機能」(85.1%)、「言語理解」(35.1%)、「本人の気持ち、意志」(30.2%)、「気分」(22.1%)などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ56件(4.2%)である。

第11パターンは平均1.7項目と最少の組み合わせであり、「他の入居者との関係」(41.8%)、「過去の入浴体験」(34.2%)他で構成されている。第11パターンの該当方法は延べ50件(3.8%)である。

第12パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」(各99.7%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(15.3%)などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ48件(3.6%)である。

第13パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「清潔度」(75.6%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(46.5%)、「皮膚疾患」(25.8%)、「洗髪への反応・様子」(31.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(22.4%)などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ46件(3.5%)である。

第14パターンは平均1.9項目の組み合わせであり、「浴室の温度」(99.5%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(26.6%)他で構成されている。第14パターンの該当方法は延べ38件(2.9%)である。

第15パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「興味・関心」(74.5%)と「気分」(61.1%)を主として、「本人の気持ち、意志」(40.9%)を含めた“心理面”にウェイトを置き、「入浴のこだわり」(20.9%)、「入浴時間帯」(20.3%)、「スタッフとの関係」(33.5%)などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ29件(2.2%)である。

第16パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「入浴のこだわり」(97.1%)

を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(28.2%)、「気分」(19.4%)などで構成されている。第16パターンの該当方法は延べ29件(2.2%)である。

第17パターンは平均2.4項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(65.7%)を主として、「入浴時間帯」(42.0%)、「介助者の人数」(22.3%)などで構成されている。第17パターンは延べ23件(1.7%)である。

第18パターンは平均4.6項目と最多の組み合わせであり、「気分」(99.6%)、「本人の気持ち、意志」(78.5%)、「湯温」(81.1%)の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(44.3%)、「シャワーの水圧」(39.2%)、「浴室の温度」(22.9%)、「洗髪への反応・様子」(31.8%)、「過去の入浴体験」(26.2%)などで構成されている。第18パターンは延べ21件(1.6%)である。

第19パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「洗髪した日」(98.2%)、「本人の気持ち、意志」(80.4%)、「気分」(78.7%)の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.1%)、「洗髪拒否の開始時期」(31.3%)、「床屋に行った日」(31.3%)などで構成されている。第19パターンは延べ6件(0.5%)である。(表3-6-5-2参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表3-6-5-3参照)

(3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第14パターン(「浴室の温度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他で構成された平均1.9項目の組み合わせ)は、「浴室温度調整」が79.5%と多い。

第3パターン(「湯温」を共通ベースとして、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」などを含めた「入浴・洗髪方法」にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ)は、「湯温調整」が39.7%、「一部分から」が21.4%と多い。

第13パターン(「清潔度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「皮膚疾患」、「洗髪への反応・様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ)は、「洗髪の効能を説明」が34.7%と多い。

第10パターン(「認知機能」、「言語理解」、「本人の気持ち、意志」、「気分」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ)は、「単純な声かけ」が32.2%と多い。

第19パターン(「洗髪した日」、「本人の気持ち、意志」、「気分」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「洗髪拒否の開始時期」、「床屋に行った日」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ)は、「声かけの態度を工夫」が31.9%と多い。

第1パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」他で構成された平均2.0項目の組み合わせ)は、「声かけの態度を工夫」が28.0%と多い。

第11パターン(「他の入居者との関係」、「過去の入浴体験」他で構成された平

均 1.7 項目と最少の組み合わせ)は、「仲の良い人と一緒に入浴」が 26.1%と多い。

第 16 パターン(「入浴のこだわり」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」などで構成された平均 2.3 項目の組み合わせ)は、「湯船につかったり、洗身してから」が 25.2%と多い。

第 18 パターン(「気分」、「本人の気持ち、意志」、「湯温」の 3 項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」、「洗髪への反応・様子」、「過去の入浴体験」などで構成された平均 4.6 項目と最多の組み合わせ)は、「湯温調整」が 24.1%と多い。

第 8 パターン(「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「介護者の性別」も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ)は、「介助者の工夫」が 24.2%、「声かけの態度を工夫」が 21.6%と多い。

第 6 パターン(「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「気分」、「性格」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ)は、「声かけの態度を工夫」が 20.1%と多い。
(表 3-6-5-4 参照)

6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 270 件中、「無理矢理裸にして拭く」が 249 件 (92.2%)、「本人の気分を無視して行う」が 247 件 (91.5%)、「汚い、臭いから拭きましょうと声をかける」が 227 件 (84.1%)、「放っておいて全く関わらない」が 213 件 (78.9%)、「だますような声かけをする」が 179 件 (66.3%) となっている。(表 3-6-6-1 参照)

(表3-6-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	285	21	42	45	29	28	37	34	27	22
パーセント	100.0	7.4	14.7	15.8	10.2	9.8	13.0	11.9	9.5	7.7

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
285	41.4	12.8	19	88

(表3-6-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	291	75	216
パーセント	100.0	25.8	74.2

(表3-6-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	275	144	10	73	6	64
パーセント	100.0	52.4	3.6	26.5	2.2	23.3

(表3-6-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	270	16	93	72	1	1	95
パーセント	100.0	5.9	34.4	26.7	0.4	0.4	35.2

(表3-6-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	283	19	170	15	94	125	33
パーセント	100.0	6.7	60.1	5.3	33.2	44.2	11.7

(表3-6-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	283	3	2	277	1	2
パーセント	100.0	1.1	0.7	97.9	0.4	0.7

(表3-6-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
288	4.2	2.7	0.1	15.0

(表 3-6-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
282	8.6	5.2	0.5	29.5

(表 3-6-2-1) 洗髪拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	291	276	15
パーセント	100.0	94.8	5.2

(表 3-6-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	262	16	33	68	85	60
パーセント	100.0	6.1	12.6	26.0	32.4	22.9

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
262	84.6	6.9	46	99

(表 3-6-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	271	30	241
パーセント	100.0	11.1	88.9

(表 3-6-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	257	170	45	4	8	30
パーセント	100.0	66.1	17.5	1.6	3.1	11.7

(表 3-6-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	276	0	5	45	3	223
パーセント	100.0	0.0	1.8	16.3	1.1	80.8

(表 3-6-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	258	4	44	210
パーセント	100.0	1.6	17.1	81.4

(表 3-6-2-7) 移動

	解決経験のある 有効回答数	杖自立	短距離歩行 自立	長距離歩行 自立	その他(回答 者追記)
実数	235	28	120	82	5
パーセント	100.0	11.9	51.1	34.9	2.1

(表 3-6-2-8) 排泄

	解決経験のある 有効回答数	身体介助必 要	身体介助必 要なし
実数	236	91	145
パーセント	100.0	38.6	61.4

(表 3-6-2-9) 入浴

	解決経験のある 有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介 助	その他一部 介助	自立
実数	263	36	18	118	66	25
パーセント	100.0	13.7	6.8	44.9	25.1	9.5

(表 3-6-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある 有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	274	32	73	95	66	8
パーセント	100.0	11.7	26.6	34.7	24.1	2.9

(表 3-6-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある 有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活主体で座位を保つ	一日中ベッドで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	265	44	190	28	3
パーセント	100.0	16.6	71.7	10.6	1.1

(表 3-6-2-12) 洗髪拒否高齢者のパターン
(潜在クラス3クラスモデルのプロフィール)

(n=229)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2	パターン3
			一部介助、 中程度重症 度	全介助、中 高程度重症 度	自立、軽中 度重症度
	サイズ	1.000	0.631	0.289	0.080
性別	男	0.109	0.054	0.207	0.192
	女	0.891	0.946	0.793	0.808
入浴介助	全介助	0.144	0.016	0.463	0.003
	移動介助	0.066	0.068	0.077	0.001
	洗身洗髪介助	0.467	0.505	0.430	0.307
	その他一部介助	0.231	0.328	0.030	0.203
	自立	0.092	0.084	0.001	0.485
認知症の 重症度	I	0.105	0.097	0.007	0.525
	II	0.275	0.407	0.003	0.217
	III	0.362	0.377	0.411	0.075
	IV	0.227	0.117	0.526	0.013
	V	0.031	0.003	0.053	0.171
身体障害の 重症度	J	0.153	0.133	0.002	0.860
	A	0.721	0.867	0.578	0.081
	B	0.114	0.000	0.375	0.059
	C	0.013	0.000	0.045	0.000

(参考) 該当事例数 → (229) (144) (66) (18)

(表 3-6-2-13) 潜在クラスモデル評価 (洗髪拒否高齢者パターン)
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1872.2	1831.0
モデル2(クラス数2)	1847.2	1761.3
モデル3(クラス数3)	1888.2	1757.8
モデル4(クラス数4)	1945.7	1770.6

(表 3-6-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	大きな声を出して拒否していた	顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	入浴はするが、洗髪には嫌がっていた	脱衣することを嫌がった	湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	シャンプーはできても、流すことができなかった	洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	その他
実数	275	114	116	141	81	64	14	28	30
パーセント	100.0	41.5	42.2	51.3	29.5	23.3	5.1	10.2	10.9

(表 3-6-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した	その他
実数	273	147	16	9	12	15	149	65	24
パーセント	100.0	53.8	5.9	3.3	4.4	5.5	54.6	23.8	8.8

(表 3-6-4-1) 洗髪拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
有効回答数			274	100.0
洗髪方法の工夫	101	顔に湯がかからない工夫	88	32.1
	102	一部分から	112	40.9
	104	湯船につかったり、洗身してから	63	23.0
	105	不安を除きながら	107	39.1
	106	洗髪後の手入れを行う	56	20.4
	107	髪を染めるため	10	3.6
	109	介助者が一緒に	5	1.8
	110	自分の方法で、任せる	6	2.2
	112	湯舟の中で	1	0.4
	113	洗身と続けて	1	0.4
	114	素早く行う	2	0.7
	115	洗髪時間の調整	4	1.5
	116	湯おけ、手ぬぐい等の工夫	2	0.7
	117	散髪してから	1	0.4
	190	その他	5	1.8
声かけ・誘導の工夫	201	声かけの態度を工夫	177	64.6
	202	単純な声かけ	90	32.8
	203	お礼やねぎらい	142	51.8
	205	家族からの依頼	3	1.1
	206	歌をうたいながら	1	0.4
	207	好きな話題で会話しながら	102	37.2
	208	仲の良い人から誘導	2	0.7
	209	入浴という言葉を選じた誘導	1	0.4
	290	その他	5	1.8
洗髪環境の調整	301	好きなシャンプー、リンスを使用	29	10.6
	302	浴室温度調整	77	28.1
	303	湯温調整	104	38.0
	305	理容室のような環境	1	0.4
	390	その他	1	0.4
介助者の工夫	401	仲の良い人と一緒に入浴	32	11.7
	402	1人で	61	22.3
	403	家族と	13	4.7
	404	介助者の工夫	65	23.7
	405	複数のスタッフ	38	13.9
	490	その他	1	0.4
その他	501	洗髪の効能を説明	59	21.5
	502	コンプレックスを確認	46	16.8
	504	信頼関係の構築	2	0.7
	505	医者の指示	1	0.4
	590	その他	1	0.4

(参考)平均記入項目数 → 5.5

(表 3-6-5-1) 洗髪拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計 (延解決方法件数)			1,328	100.0
認知能力	1	認知機能	62	4.7
	2	認知症の種類	18	1.4
	3	見当識	19	1.4
	4	妄想の有無	9	0.7
健康面	5	現病・既往歴	7	0.5
	6	バイタル	7	0.5
	7	失禁有無	10	0.8
	8	排泄状況	6	0.5
	9	清潔度	86	6.5
	10	食欲	0	0.0
	11	睡眠時間・状況	5	0.4
	12	皮膚疾患	16	1.2
	13	生理	0	0.0
能力・機能	14	歩行・下肢機能	1	0.1
	15	着脱能力	3	0.2
	16	言語理解	78	5.9
	17	上肢機能	2	0.2
心理面	18	気分	341	25.7
	19	本人の気持ち、意志	518	39.0
	20	興味・関心	109	8.2
入浴・洗髪方法	21	入浴時間帯	56	4.2
	22	入浴のこだわり	59	4.4
	23	入浴人数	13	1.0
	24	浴槽の形	2	0.2
	25	浴室の温度	88	6.6
	26	湯温	172	13.0
	27	シャワーかどうか	34	2.6
	28	洗髪した日	24	1.8
	29	シャワーの水圧	94	7.1
	30	シャンプーの種類	8	0.6
	31	床屋に行った日	6	0.5
拒否時の状態	32	洗髪拒否の開始時期	12	0.9
	33	洗髪への反応・様子	197	14.8
入浴習慣	34	洗髪習慣(自宅での方法)	94	7.1
	35	浴室環境(自宅)	15	1.1
	36	生活歴(幼少期から)	43	3.2
	37	過去の入浴体験	88	6.6
人間関係	38	他の入居者との関係	51	3.8
	39	スタッフとの関係	314	23.6
	40	家族関係	31	2.3
介護者の対応	41	スタッフの声かけ内容・見守り方	453	34.1
	42	介護者の性別	86	6.5
	43	介助者の人数	20	1.5
その他	44	性格	137	10.3
	45	性別	34	2.6
	46	下着の状態	9	0.7
	47	趣味	16	1.2

(参考)平均記入項目数 →

2.6